CURTIS S. CHIN

LONDON SPEAKER BUREAU

- **Former US Ambassador to the Asian Development Bank**
- **Chairman of Milken Institute Asia Center**

Topics

- Asia
- Diversity
- Economics
- Government

Curtis S. Chin は国際的に尊敬されているミルケン インスティテュートのアジア事業の会長であり、元アジア開発銀行 (ADB) の米国大使、アジア系アメリカ人連盟の諮問委員会のメンバーであり、イーストが出会う場所でのメディアの存在と発言力を持っています。ビジネス、貿易、文化からアジア系アメリカ人コミュニティが直面する問題まで。

レーガン政権でのホワイトハウスのインターンとしてのスタートから、米国政府で最も地位の高いアジア系アメリカ人の 1 人としての超党派の奉仕まで、カーティスの世界を駆け巡るキャリアは、公的、私的、および非営利の世界を網羅してきました。 、および最高レベルの経済および開発の問題。

カーティスは、2007 年から 2010 年にかけて、世界で最も困難な経済状況の 1 つであった時期に、ジョージ W. ブッシュ大統領とバラク オバマ大統領の下で、米国財務省の国際問題チームのメンバーでした。 2007 年に米国上院が満場一致で承認した、中国系の 4 人目の米国大使に先立って、カーティスはアジア、ヨーロッパ、米国の企業や政府のクライアントのカウンセラーとしてのキャリアを築き、危機管理と広報のコンサルタント会社であるバーソンに勤務していました。 -マーステラー。

カーティス S. チンは、アジア開発銀行 (ADB) の第 15 代米国大使として、重要な改革と、より「人々、地球、パートナーシップに焦点を当てた責任ある開発」の呼びかけを主導しました。貧困削減に焦点を当てたアジアの主要な国際金融機関での彼の経験により Curtis は「the little 'bric という頭字語を作成しました。これは国家のグループ化ではなく、官僚主義、規制、介入主義、腐敗を指し、教育からエネルギーまで、すべての産業部門における成長の真の制約であり、機関やビジネスに対する真の脅威であると彼は主張しています。

カーティス氏は、ADB の理事会に所属している間、特にアジアの後発開発途上国において、人、地球、パートナーシップに焦点を当てたリスク管理と開発努力の強化を推進しました Curtis は現在、アジアの新興企業や影響力のある投資家にアドバイスを提供しています。ドルマ・インパクト・ファンドは、ネパールに焦点を当てた最初の国際株式ファンドです。

トピック：
・ 環境、社会、コーポレート ガバナンス (ESG)
・ 米中関係
・ 米国 – アジア関係
• グローバルトレンド
・ 多様性と包括性 (DEI)

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988